

# ENGLISH THROUGH INTERNET

## —国際時事問題を通して—〔Ⅱ〕

山西 敏博

(前号に続く)

### 2-3. アンケート調査

<質問項目>

1. 自宅にコンピュータゲーム(ファミコンなど)がありますか。 YES・NO

2. 自宅にコンピュータはありますか。 YES・NO

① 親用・自分用・共同の別

② 機種(Windows or Mac)の別

3. (2でYESの人のみ)

インターネットを授業受講以前にやっていたか。 YES・NO

4. (3でYESの人のみ)

何を検索しましたか。(具体的に)

5. (2でNOの人のみ)

授業受講後コンピュータを欲しいと思いましたが。 YES・NO

6. (5でYESの人のみ)

インターネットをやってみたいと思いましたが。 YES・NO

7. (6でYESの人のみ)

何を検索したいと思えますか。(具体的に)

8. (3でYESの人のみ)

授業受講後インターネットでニュースの検索をしましたか。 YES・NO

9. (8でYESの人のみ)

何を検索しましたか。(具体的に)

10. (3でNOの人のみ)

インターネットをやってみたいと思えますか。 YES・NO

上記アンケートの集計表は下記表2のとおりである。

表2

項目	3年1組 (U = 39)				3年2組 (U = 39)				3年3組 (U = 39)				北嶺中学3年総計 (U = 117)			
	Yes	%	No	%	Yes	%	No	%	Yes	%	No	%	Yes	%	No	%
1	37	95	2	5	35	90	4	10	34	87	5	13	106	91	11	9
2	29	74	10	26	31	79	8	21	25	64	14	36	85	73	32	27
①	親	6	21		親	19	61		親	5	21		親	30	35	
	自	6	21	—	自	4	13	—	自	3	13	—	自分	13	15	—
	共	17	59		共	8	26		共	17	71		共同	42	50	
②	W	20	69	—	W	25	81	—	W	19	76	—	Win	64	75	—
	M	6	31		M	6	19		M	6	24		Mac	21	25	
3	12	41	17	59	21	68	10	32	15	60	10	40	48	56	37	44
4	<12人中> (%)				<21人中> (%)				<15人中> (%)				<48人中> (%)			
	趣味 4(33)				ゲーム 8(38)				娯楽 5(33)				趣味・娯楽 19(40)			
	ゲーム 3(25)				多種情報 4(19)				ゲーム 3(20)				ゲーム 14(29)			
	スポーツ 2(10)				新機種情報 3(24)				スポーツ 2(13)				スポーツ 6(13)			
	ニュース 1(5)				スポーツ 2(10)				歴史 2(13)				ニュース関連 3(6)			
	チェルノブイリ原発 1(5)				ニュース 1(5)				chat 1(7)				chat 2(4)			
				ファッション 1(5)				映画 1(7)				その他 4(8)				

	天気予報 いろいろ	1(5) 1(5)	音楽 chat	1(5) 1(5)	いろいろ	1(7)										
5	8	80	2	20	6	75	2	25	12	86	2	14	26	81	6	19
6	8	100	0	0	6	100	0	0	12	100	0	0	26	100	0	0
7	<8人中> 世界情勢 趣味 スポーツ 宇宙 友人通信 ゲーム	(%) 2(25) 2(25) 1(13) 1(13) 1(13) 1(13)	<6人中> ニュース 娯楽	(%) 3(50) 3(50)	<12人中> 音楽 いろいろ スポーツ 政治 ニュース 趣味	(%) 4(33) 3(25) 2(17) 1(8) 1(8) 1(8)	<26人中> ニュース関連 趣味・娯楽 音楽 スポーツ その他	(%) 7(27) 7(27) 4(15) 3(12) 5(19)								
8	2	7	27	93	6	29	15	71	0	0	15	100	8	12	57	88
9	<2人中> 天気予報	(%) 2(100)	<6人中> トルコ地震 ニュース	(%) 4(50) 2(33)									<8人中> ニュース 天気予報	(%) 6(75) 2(25)		
10	17	100	0	0	8	80	2	20	9	90	1	10	34	92	3	8

表3は以前より「個人(親/共同)でコンピュータを所有」(質問2)しており、「授業受講前」に「インターネットを個人的に操作していた」(質問3)者の操作項目の割合(質問4)である。主として「趣味・娯楽」や「ゲーム」、「スポーツ」と自分の趣味、嗜好のためにコンピュータを利用していた傾向にある。これは当然の事であり、項目1にあるようにコンピュータゲームの所有率が全体で91%を数える中で、その興味の延長上としてインターネットを利用したとしてもなんら不思議ではない。他方、コンピュータ所有者85名中「ニュース関連」を検索していた者は3名(4%)ではあったが、そこから抽出して「授業受講前」に「ニュース」関連を検索していた者が6%はいたということも見逃せない事実である。特に「チェルノブイリ原子力発電所事故」関連について調べていた事は、昨年度の実践が生きていたことになり非常に喜ばしいかぎりである。

表3

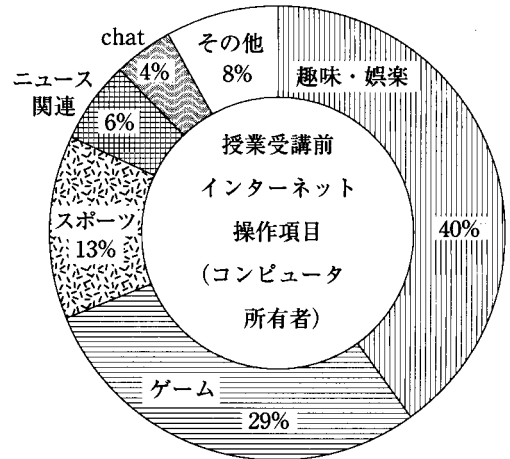
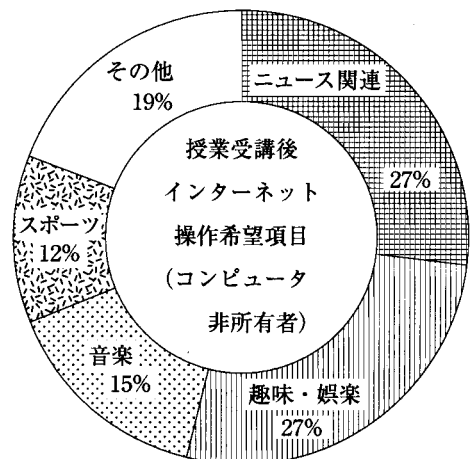


表4

表4は「以前から個人所有のコンピュータをもっていない」(質問2)、「所有してみたい」(質問5)と思い、さらに「授業受講後」にインターネットを操作したい(質問6)と思っている者の希望操作項目の割合である。第1に、非常に興味深い点として「所有してみたい」と思った者全員が「インターネットを操作してみたい」と思った点が挙げられる。質問3で読み取れるように「インターネットに対して興味を抱いていた者」は半数強の56%であったのに対して、質問6では「所有していない」でさらに「イ



ンターネットを用いた授業を受けた」からこそなおさらインターネットに興味を抱いたと分析する事ができよう。さらに特筆すべきは「ニュース関連」に興味を抱いた者が実に前表の4.5倍の27%に達した事である。反面「趣味・娯楽」に対して興味を抱いた者は前表の者と比較すると13%も減少している。これは指導者がコンピュータやインターネット操作・情報収集に対して的確な示唆を与えてあげると、生徒も単なる遊び道具の延長としてだけでなく、教養や知識を得られる機器としてニュースや社会情勢の情報収集に積極的に取り組んでいくことを示している。

他方、「個人所有のコンピュータをもち」(質問2)、「以前よりインターネット操作をしていて」(質問3)、さらに授業受講後「ニュース検索を試みた」(質問8)と答えた者の割合は85人中6名(7%)となり比率の点から2倍の関心を集めている。しかし以前からインターネット操作をしていた者が半数強もいた割には、その関心度はさほど高い数値を示してはいない。反面、これと前表のインターネット操作に興味を抱いた生徒との比較でいくと、前者は非所有者32名に対して「ニュース検索」に関心をもった者が7名(22%)となり、前者は後者のおよそ3倍の関心度を集めている。これは前者以上にコンピュータ操作及びインターネット操作に関心を抱いた者が、自ら操作するからには授業で習ったように「ニュース検索」とおして世界、国際情勢を知ってみたいという知的好奇心の現れであると分析できる。

質問9にて自らの操作でトルコ大地震の検索を試みたという者もあり、授業内容が家庭でも反映しているという結果が見られる。

このデータの正確さを図る上で障害となる点が1つある。それは寮生の位置づけである。本校は寮生としておよそ3分の1を抱えており、第3学年でも全体117名中30名(26%)は寮生である。寮には生徒用のコンピュータが設置されていないためインターネットを操作してみたくともできないというもどかしさがある。それゆえ、質問8のNOの数が88%と多い数値を出してはいるが、潜在的にインターネット操作、及び「ニュース検索」をしてみたいと思う者はそれ相応に含まれていると思われる。

### 3. 総括

以上のような実践を試みて生徒はより社会事象に関心をもって来てきていると思われる。コンピュータ導入に際して公立小中学校ではすでにかかなりの数が積極的に取り入れ始めている。きたる西暦2002年には学習指導要領の改定に伴い、小・中・高校に「総合学習」の時間が盛り込まれ、小学校では文部省が中心となってその時間を利用して「英語学習」の積極的導入を語学学校と提携して盛り込んでいく計画がなされていたり、前述したように文部省研究指定校では社会科や理科の授業での資料調査にインターネットを利用した情報検索などが進められ、他県や世界にある学校と通信回線をつなぎ「テレビ会議」なるものも行われている。「コンピュータ・インターネットを用いて英語学習をする意義」、ひいては究極の「なぜ英語を学ぶか」(目標6)\*について授業終了後次のように述べた。

世界の共通語といわれている英語を用いて、さらに情報収集の道具としてコンピュータ・インターネットを用いることにより、自宅や学校にいながらにして世界の社会情勢を知ることができ、加えてそこで表示された内容を読み取ったり自らの意見を述べたり、相手の話を聞き取ることにより社会のために貢献していけるようになること—これが英語を学ぶ意義ではないだろうか。

前述の思案「日本の教育」を受けて書き連ねた「学問追求・学問を学ぶ意義」とも重複するところもあるが、特に世界に目を向けたときにそこで情報を発信する際に用いられる英語を学ぶ事の意義は、この現代社会においては極めて重要な位置づけであると言えよう。今後ともこれらの命題を常に念頭に置きつつ英語教育を進めていく所存である。とりわけ史上類を見ない大災害にみまわれたトルコ共和国の一刻も早い復旧を望むとともに、募金活動やなんらかの支援を通して災害復旧に協力していきたいと考えている。

\*前号 2-2 授業実践の中の目標6：現代の国際社会に生きる者として多義の「国際理解」と「英語を学ぶ意義」を再確認させる